表 6-中 E.FORUM スタンダード（第 1 次案）：中学校美術（小山英恵編集）

美術科における包括的な問い：
美術とは何か。美術表現の楽しさ、よさ、美しさとは何だろう。
様々なイメージや感情、思いやメッセージは、色彩や形などによってどのように表現されるのか。

領域		表現	
		感じ取ったことや考えたことを基に発想や構想する力	伝える、使うなどの目的や機能を考え、発想や構想する力
領域の本質的な問い		絵や彫刻などの発想や構想はどのように生み出すのか。	・デザインや工芸の発想や構想はどのように生み出すのか。
中学校	本質的な問い	**対象や想像から主題**：この対象にはどのような特徴や美しさがあるだろうか。この対象から私は何を感じるだろうか。私は何をどのような思いで表現しようとしているのか。 **主題から構想**：主題を効果的に表現するにはどのように構成すればよいだろうか。	**目的や条件と美的感覚から構成や装飾**：この作品はどこに、何のために構成、装飾するのか。その構成や装飾をより豊かなものにするにはどのようにすればよいか。 **分かりやすさや美しさ**：この作品では何を伝えたいのか。この作品は他者にどのように受け取られるだろうか。より分かりやすく、より美しくするにはどのようにすればよいだろうか。 **機能、使用する者の気持ち、美しさ**：この作品は、いつ、どこで、誰が使うのか。使用する他者にとって必要でありかつ楽しめる、心地よさを感じられる、美しいものとはどのようなものか。機能と美はどのように調和するのだろうか。
	永続的理解	・絵や彫刻などの主題は、対象に対して自らが感性を豊かに働かせること（複数の視点から見つめたり、自身の体験や心情から想像したりすることなど）によって感じ取ったこと、また夢や感情などの心の世界から生み出される。 ・主題を効果的に表現するには、想像力を働かせ、対象の形や色彩における全体と部分のバランス、量感や動きが醸し出す空間性、雰囲気、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考えて構成を工夫する必要がある。 ・構成的な側面（主題）と表現方法（材料や技法）の側面が調和よく働いたときに心豊かな表現の構想が実現する。	・デザインや工芸においては、目的や条件と美しさとの調和を考え、形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを工夫して構成や装飾を考える必要がある。 ・デザインや工芸においては、伝えたい内容を伝えるために、他者の立場に立ち、形や色彩、材料などの効果を生かして構想する必要がある。 ・分かりやすさと美しさは相反するものではない。 ・デザインや工芸においては、形や色彩、材料を機能的な側面と他者理解に立った客観的な側面とでとらえ、同時につくり手の夢や想像を生かして、美しく発想や構想する必要がある。
	課題例	〔課題例〕[1]　公園の彫刻 あなたの地域に新しい公園がオープンする予定です。この地域公園の設計者は、あなたの学校の生徒たち一人一人に、公園でよく見られるような動き（ランニング、ダンス、遊び、風に揺れる木、風に飛ばされ落ちる葉、凧あげなど）の抽象的な彫刻のひな型を創作することを求めました。この彫刻は、新しい公園の入り口に設置される予定です。あなたが創作するこの彫刻のひな型は、頑丈で、支えなしに立ち、あらゆる方向から見ることができ、ヴィジュアルバランス（左右対照あるいは非対照、放射状など）を示すものでなければなりません。あなたは、あなたの抽象的な彫刻がこの新しい公園の一部として選ばれてほしいと思っています。 設計者は、あなたにこの抽象的な彫刻の名前をつけてほしいと思っています。その名前は、あなたの彫刻のひな型における特定の動きを反映するものでなければなりません。設計者は、あなたの形が、あなたの完成した彫刻のひな型における特定の動きのアイディアを伝えるためにどのように役立つのかを説明する設計図を創作する必要があると説明しています。	〔課題例〕[2]　ユニバーサルデザインを考案しよう 自分が考案した製品の取扱説明書を作成します。商品としてのキャッチコピーと使用者に対してよりわかりやすい説明文を、以下の条件を踏まえ、考え、作成しましょう。 ・色や図は自由に使用してよい ・デジタルカメラも使用可能 ・A4 サイズの用紙 1 枚にまとめること （武田巨史教諭）

形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする技能	鑑賞
・発想や構想はどのように造形にすることができるか。	・様々な美術作品や自然に、私はどのようなよさや美しさを感じるだろうか。
表現意図に合う表現方法の工夫：表現意図はどのようにすれば表現することができるだろうか。 **制作の順序**：制作を効果的、効率的に進めるためにはどのような順序で進めればよいだろうか。	**造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能の調和、生活における美術の働き**：この美術作品/自然において、造形的なよさや美しさはどこにあるだろう。作者はその作品によって何をどう表現したかったのだろう。このデザイン/工芸においては、機能と美がどのように調和しているだろうか。生活のなかの形や色彩などは、見る人や使う人にどのような感覚を与えているか。 **日本及び諸外国の美術の文化遺産**：美術文化には人々のどのような願いや美意識があったのだろうか。日本の美術や文化と諸外国の美術や文化との相違と共通性、それぞれのよさはどのような点にあるだろうか。 **安らぎや自然との共生から美術の働き**：美術作品に取り入られている自然のよさとはどのようなものか。自然や身近な環境の中にはどのような造形的な美しさが見られるだろうか。人工的なものが人間と自然の両方に調和し、且つ造形感覚に照らして美しい環境をつくりだすにはどうしたらよいか。
・発想や構想は、表現意図に応じて形や色彩などの表し方（遠近感や立体の量感・塊、動きなど）、材料や用具の生かし方などを考え、また新たな表現方法を工夫するなどして造形にしていくことができる。 ・美術作品の制作においては、材料や用具、表現方法の特性などを考えて制作の順序を決め、計画的に進める必要がある。ただし、制作の途中で新たなイメージが膨らんだり、構想上の課題を発見したりしたとき等には制作順序が変わることもある。また同じ材料であっても用具や表現方法を変えると、全く違った手順になる。	・美術作品や自然における造形的なよさや美しさは、自分の感覚で素直に味わったり、形や色彩、材料などに視点を置いて感じ取ったりすることができる。その際、外形には見えない本質的なよさや美しさもとらえることが大切である。 ・作者の心情と表現の工夫は正解があるものではないため、作品の内容や形、色彩、材料、表現方法などから自分として根拠をもって読み取ることが大切である。 ・デザインにおける機能と美の調和はつくり手の意図と使い手の美的選択能力による働きかけによって洗練されていく。 ・身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形の働きが見る人や使う人の心を豊かにする。 ・人々は自らの生活や人生をより豊かで充実したものにするために美術文化を創り上げてきた。国や地域、民族によって表現方法や造形感覚に相違がある。 ・美術作品のつくり手たちは、自然に対する美意識を持ち自然のよさや造形的な美しさを作品に取り入れてきた。 ・学校や家庭、地域社会を心安らぐ場にするためには、造形的環境を美しく心地よいものにする事が重要である。
公園の彫刻、ユニバーサルデザインを考案しよう　参照	〔課題例〕[3]　美術作品の批評に挑戦しよう これから取り組む3つの題材において、自分や友人が作った作品のもつ価値について議論し、学んだ内容を駆使しながら批評してみよう　（武田巨史教諭）

[1] ワシントン州公教育管理局 HP、http://www.k12.wa.us/Arts/PerformanceAssessments/default.aspx（2013 年 8 月 8 日確認）
[2] 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM『「スタンダード作り」基礎資料集』2010 年、p.173。
[3] 武田巨史「第 6 章　美術科」西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価　中学校――パフォーマンス課題とルーブリックの提案』学事出版、2009 年、p.87。